



時事通信社

株式会社時事通信社

PBX 更改を機に構内 PHS からスマートフォンに移行 社内外のスムーズなコミュニケーション環境を実現

導入サービス : Arcstar Smart PBX



株式会社時事通信社
システム開発局長
霜崎 忠則氏

「将来的には全部スマートフォンに移行したいと考えています」

課題

- ・社内外の音声コミュニケーション環境を見直したい
- ・PHSの老朽化、故障時の部品調達が難しく管理が困難に

対策

- ・オンプレミス型PBXとクラウドPBXを連携して構築
- ・PHSからスマホへ移行。キャリアフリー、デバイスフリーで豊富な端末が内線化可能に

効果

- ・オンプレミス型PBXのスリム化により、導入コストを約10%削減
- ・社外でも社内にいる感覚で内線電話が使用可能。外出先でもスムーズなコミュニケーション環境を実現



株式会社時事通信社
システム開発局
山田 一幸氏

「現在150IDを1人で問題なく管理しています。Web画面で管理ができることは非常に便利です」

課題

業務上、情報の「速さ」と「正確さ」を追求することは最重要
構内PHSからスマートフォンへの移行、固定電話の削減を検討

総合メディア企業である時事通信社は、新聞社や放送局にニュースを配信するとともに、金融機関や企業、省庁・地方自治体などに専門の情報やニュースを提供している。2017年7月には「総合メディア局」を立ち上げ、新聞、放送、Web、セミナー、調査、出版などの複数のメディアを融合した、デジタル時代、インターネット時代にふさわしい情報ソリューション事業の創出に取り組んでいる。情報配信をビジネスのコアに置く同社にとって、最も重要なのが情報の「速さ」と「正確さ」だ。そのため、社員のコミュニケーション環境を重視し、社員1人に1台の固定電話を用意するのはもちろん、内線端末として構内PHSを導入。部署ごとに一定台数を配布し、会議などで離席する際も社内内で内線通話ができる環境を整備するなど、モバイル端末の活用にも積極的に取り組んでいた。

しかし、PBXの更改時期が迫り、使用していたPHSも老朽化によりバッテリーが劣化したり、部品が調達できなくなったりするなど管理が難しくなっていたことから、音声コミュニケーション環境の刷新に着手した。同社の社内ITシステムの開発・運用を担うシステム開発局長の霜崎忠則氏は、検討の背景を振り返る。

「営業担当は外出や出張も多く、社外でのモバイル環境の整備は重要と捉えており、PBXの更改を機に、構内PHSをスマートフォンに移行してモバイル端末を社外でも業務に活用できるようにしたいと考えました。また、弊社は社内の異動も多く、その度にPBXの設定変更や配線も必要になるため、できるだけ固定電話の台数を減らすことも求められていました」

企業情報

社名 株式会社時事通信社

事業概要 新聞社や放送局にニュースを配信する報道機関としてのコアビジネスに加え、金融機関や企業、省庁・地方自治体などに専門の情報やニュースを提供する総合メディア企業。国内47都道府県に78の本支社・総支局、海外に28の総支局を設置し、24時間365日、リアルタイムに生の情報を発信している。

URL http://www.jiji.com/c_profile/

